明治国際医療大学誌　25・26 号：57, 2021
Ⓒ 明治国際医療大学

プ ロ グ ラ ム

メインテーマ：『トランスレーショナルリサーチ　～東洋医学と西洋医学の接点を探る～』

（1）コーディネーター　伊藤 和憲 教授，鳴瀬 善久 教授

（2）演題発表　（発表 10 分，質疑応答 5 分）

15：45 ～ 16：00
・「「くうねるあそぶ」にまつわるツボの科学化」
〔鍼灸学部〕　講　師　山崎　翼

16：00 ～ 16：15
・「足からみた東洋医学とのつながり」
〔保健医療学部〕　講　師　神内　伸晃

16：15 ～ 16：30
・「看護学におけるトランスレーショナルリサーチの可能性」
〔看護学部〕　教　授　仲口　路子

16：30 ～ 16：45
・「続サイエンティストゲーム―若き東洋医学者の生き残り戦略―」
〔医学教育研究センター〕　教　授　鳴瀬　善久

（3）総合討論（約 15 分）

16：45 ～ 17：00

「くうねるあそぶ」にまつわるツボの科学化

山崎 翼

鍼灸学部

近年,「くうねるあそぶ」をキーワードに，子供の成長や発達，ライフスタイルを見直す活動が活発になりつつある．その背景には，価値観の多様化や働き方の変化などに伴う，心身のストレス増大があると考えられている．

これらのストレスは，何らかの介入をしなければ生活習慣病やうつ病の発症リスクになるものの，病気ではないため，西洋医学ではフォローしきれない部分があると考えられている．そのような領域に対して，補完的役割として鍼灸治療は病める方々に寄り添ってきた．治療ツールとして，我々は東洋医学の経穴（ツボ）を活用してきたが、その作用機序や効能は神秘的であるとされてきた．しかし, 科学の発達に伴い,「ツボとはなにか」が少しずつ明らかにされてきており，様々な分野での応用が始まろうとしている．

今回，シンポジウムの話題提供として，明らかになりつつある「ツボとはなにか」について，ご紹介させていただきたい．

足からみた東洋医学とのつながり

神内 伸晃

保健医療学部

足は身体を支え，移動するために重要な役割を持ち，建物構造でいうところの基礎にあたる．そのため，足部の外傷が原因で関節のマルアライメントや関節可動域の低下が後に膝や腰に影響することがある．そのような場合, 靴にインソールを入れることで解消するケースもある．近年はスポーツの分野でもシューズにインソールを入れることで怪我の予防やパフォーマンスの向上を目的に使用されている．このように足が原因で身体に影響を及ぼすことは近年の研究によって知られつつある．とくに子どもにおいては，運動不足によって足の骨格に影響をあたえ，学習にも影響を与えることがわかってきている．

このように足はヒトの構造においても基礎となり，慢性的な症状や不定愁訴が多く有する患者では，足の影響が原因の一つにならないか考慮する必要がある．今回は足部が身体に与える影響について東洋医学的な観点でも考察し，そのつながりについて紹介したい．

看護学におけるトランスレーショナルリサーチの可能性

仲口 路子

看護学部

Translational Research とは米国においては，National Institute of Health (NIH) による定義が広く用いられている．そこには「基礎，臨床，または疫学の研究成果を人々の健康を保持増進させるために，ケアの担い手や住民が応用できる情報，資源，用具に転換していくことである」とされている．またさらに，Translational Nursing Research とは「看護研究の成果を実践に活用できるようにする方法論」とされている．Translation には「内容を変えずに形式を変換する」という意味があり，そこには,①実験室等で行われた基礎的研究の成果を臨床で患者に適応するという側面と,②臨床研究において得られた研究成果をさらに多くの対象や場において活用していくという 2 つの側面が含まれているという．何れにせよ，もともとの問題から研究によって抽出された結果を，ふたたび臨床に還元していくところに焦点を当てた研究ということになる．

看護学と西洋医学，東洋医学という視座から考察すると，もともと「看護」という営みには，東洋医学・西洋医学の考えを「橋渡し」する志向がある．今後はますます，人々の健康にたいする価値の向上に資するよう，両医学の知見を融合した考えのもと，それらを看護臨床に応用していく実践的研究が求められていると考えられる．

続サイエンティストゲーム
―若き東洋医学者の生き残り戦略―

鳴瀬 善久

医学教育研究センター

平成 28 年度から国立大学では３つの重点支援,①地域貢献型：地域に貢献する取り組みを主に行う大学、②教育研究型（特色型）：専門分野の特性に配慮しつつ世界・全国的な教育研究を行う大学,③卓越した教育研究型（世界型）：全学的に卓越した成果を創出している海外大学と競争できる大学といった枠組みに分類されるようになり,私立大学も同様に教育または研究面で特色を出し,成果を出さなければ淘汰される時代がやってきた．本学の得意とする鍼灸分野を含む補完代替療法の世界的成長規模は、2019 年には約 7 兆円で，2020 年度からは毎年約 2 千億円規模で成長するだろうと予測されている．このことは，鍼灸，ヨガ，瞑想，スパ，磁気療法などの補完代替医療を含むウェルネスを一般の人々が広く受け入れたことが要因と考えられ，国民の健康，医療分野に対する期待は高くなっている．文部科学省では令和２年健康・医療戦略として基礎研究を臨床現場に橋渡しする,「トランスレーショナルリサーチ」の仕組みや研究体制を整備し，実証研究基盤の構築を推進している．本学東洋医学の面からはどうだろうか．臨床現場では東洋医学治療の改善効果は見られるが，逆に，証拠となる基礎研究のデータが弱く，そのため臨床現場から基礎研究を橋渡しする研究,「リバース・トランスレーショナルリサーチ」が必要ではないかと考えられる．この発表では，東洋医学治療の問題点を挙げ、「リバース・トランスレーショナルリサーチ」臨床から基礎研究を推進することで科学的な根拠に基づく医療を提供できるよう，遺伝子改変モデル動物などを利用した研究展開を提案する．